

令和3年度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名： きらり庵 （放課後等デイサービス）

# 健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和4年3月30日

滋賀県健康医療福祉部障害福祉課長 あて

(所在地) 東近江市上中野町 397  
(施設・事業所名) きらり庵 放課後等デイサービス  
(代表者職・氏名) 藤本 潤

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

## 記

### 1 施設・事業所の名称

社会福祉法人美輪湖の家 きらり庵

### 2 評価基準およびサービスの種別 (該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入)

#### ○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準① [障害者/施設、グループホーム]

(種別: )

イ 障害福祉サービス共通評価基準② [障害者(児)/在宅]

(種別: )

ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ その他の評価基準 (具体的に: )

※種別 (記入例: 就労継続支援B型)

### 3 自己評価の実施時期 (自己評価結果をとりまとめた時期)

令和 4年 3月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供してもよい ・ 提供しないでほしい

5 自己評価結果の公表の有無 (該当するところを○で囲む)

- ①市町への送付  ・ しない  
②滋賀県健康福祉事務所への送付  ・ しない  
③県庁障害福祉課への送付  ・ しない  
④施設・事業所内での閲覧提供  ・ しない  
⑤インターネットのホームページ  ・ しない  
⑥その他の方法での公表

(具体的に： )

6 サービス改善計画の公表の有無 (該当するところを○で囲み、括弧内に記入)

- ①市町への送付  ・ しない  
②滋賀県健康福祉事務所への送付  ・ しない  
③県庁障害福祉課への送付  ・ しない  
④施設・事業所内での閲覧提供  ・ しない  
⑤インターネットのホームページ  ・ しない  
⑥その他の方法での公表

(具体的に： )

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 31日

事業所名

放課後等デイサービス きらり庵

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			小集団でも活動が行えるように、多くの活動スペースを確保している
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			車椅子の方もおられるので、常にバリアフリーには配慮を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			方針会議、中間総括、総括会議を実施。目標設定の確認や事業所・支援の方向性について話し合い、意見交換を実施。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HP上で公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			回覧による研修参加の呼びかけを行い、積極的に参加してもらう機会を作っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	△			全員ではないが利用者のコミュニケーション理解に合わせた支援ができるように、発達診断結果を参考にして支援を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			複数職員で活動会議を毎月実施し、季節・イベント・活動のポイントなどを意図的に設定し個別や集団に焦点をあてた活動を行っている。
適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用者が活動希望を発信できる機会を作り、活動に向けての楽しみ・期待感を膨らませている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			始まり・終わりの会など集団で集まって力を発揮できる場と個別の時間も保障している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			当日の役割分担や動き等を毎日打ち合わせを行ってから支援に入っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	○			全体の様子と個人の様子を振り返り、翌日や今後に向けての課題整理を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断してガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			
	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			支援体制もあり、ふさわしい職員が参加できていないこともある。
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		学校との情報共有できる場が少ないため、連携がしづらい状況である。
	21	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え、就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談事業所によっては共有できていないところもある。
関係機関や保護者との連携	22	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	23	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	24	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ感染症の状況もあり、機会を作ることが難しかった。
	25	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時等は様子や利用者の成長を話せる大切な時間となっている。発達について知識を深め、保護者と語り合えるように努めていきたい。
	27	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
	28	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明を実施しており、必要に応じて報告、説明を行っている。
	29					
	30					

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			悩みや相談などは日々の送迎時や個別面談にて行っている。また、必要に応じて相談員に繋げるなどしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナの影響で全体会として開催することが出来ていないが、個別面談の呼びかけを行っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月事業所広報誌を発行し、活動風景や利用者・職員の情報発信となっている。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			コロナの影響はあるものの、参加できるイベントには参加を行った。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		発作対応マニュアルを定期的に確認。防犯や感染症については周知出来ていないため、今後の課題である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	△			火災訓練 年2回実施 地震訓練 未実施
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			法人研修で位置づけされており、全職員が研修に参加する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して				該当なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				該当なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		毎日の打ち合わせでひやりを共有しているが、書面に残すことが出来ていない。書面におとし、傾向と対策が考えられるようにしてい

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 4年 3月 31日

事業 放課後等デイサービス きらりあん

保護者等数(児童数)

回収数 14名

割合 50 %

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100%					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	80%	20%			見学に行かせてもらった際に、たくさん職員の方がおられた	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	80%	20%				
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	70%	30%				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	90%	10%				
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0%	90%	10%		コロナ渦のため難しい	コロナの影響のため難しいが、工夫しながらつながりが持てるような機会を作っていきたい
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	90%	10%			職員によって差がある	子ども達一人ひとりの障害特性や発達年齢について職員間で再度共通理解を行い、保護者と伝え合えるように努めていく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		90%	10%		コロナの影響で難しいが、落ち着いたら保護者会をしてほしい	個別で面談を行いながら聞き取りを行っていく。コロナの状況を見ながら保護者会の開催を検討していく
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	90%	10%				
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%					
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	90%	10%			事業所広報誌を毎月楽しみにしている	定期的に広報誌を発行し、事業所の情報や子ども達の様子を発信していく
14 個人情報に十分注意しているか	100%	5%					
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	80%	20%				
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	90%	10%				
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	90%	10%			重度障害のため、楽しみに感じているかわかりづらい	障害の軽・重度に限らず、子ども達が笑顔で過ごせる環境作りや様子を保護者にも伝えていけるよう発信し続けていく
	18 事業所の支援に満足しているか	100%					

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

## 障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

### ○概 評

①非該当とした項目の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

臨床心理士を配置していないので、事業所での発達検査は行えていないが、定期的に各個人で発達検査を受けられている方もいるので、発達診断結果表を全利用者に提出してもらっている。発達段階に合った活動・支援を行う。発達支援センターの協力依頼を継続して行っていく。





【参考様式】

## サービス改善計画書

策定日：令和4年3月

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：きらり庵

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
21		学校との情報共有の場が少ないため連携が困難	学校の送迎時の各担任との申し送り、情報共有の時間を大切にすること、ケース会議の積極的な参加を行い学校での様子を聞き取る。	令和4年度	藤本	
26・32		コロナ感染症の影響を受けて	コロナの感染状況を見ながらではあるが、特に保護者会に関しては職員・保護者ともに開催を望んでいるので状況から方法を模索しつつ、代替えとして行っている個別面談は継続して実施していく。			